

生物多様性とちぎ戦略の進捗状況について（概要）

平成 26 年 9 月 12 日
環境森林部自然環境課

栃木県における豊かな生物多様性を保全し、将来にわたって持続的に利用していくため、平成 22 年 9 月に「生物多様性とちぎ戦略」を策定し、県民をはじめとした様々な主体との協働による取組を推進していくこととしている。

この戦略において、平成 27 年度までの 5 年間で取り組む重点プロジェクトに位置づけている重要かつ緊急性のある取組について、平成 25 年度の状況を公表する。

1 指標項目の状況

生物多様性とちぎ戦略では、平成 27 年度までの数値目標として、重点プロジェクトごとに計 10 の指標を設定した。平成 25 年度の達成状況をみると、各指標項目において、一部の指標項目を除いて、目標に向けて増加していることから、総体的には概ね順調に進んでいると判断できる。

（1）里地里山保全再生プロジェクト

指標項目	基準年		現 況				目 標	
とちぎ里山林モデル地区数（箇所）	H21	0	H24	6	H25	6	H27	5
地域ぐるみでの獣害対策取組地区数（箇所）	H21	0	H24	8	H25	8	H27	10

（2）河川・湿地保全再生プロジェクト

指標項目	基準年		現 況				目 標	
外来種駆除活動数（箇所）	H21	5	H24	7	H25	8	H27	10
人工産卵場の設置箇所数（箇所）	H21	80	H24	84	H25	67	H27	160

（3）野生動植物保全プロジェクト

指標項目	基準年		現 況				目 標	
自然環境保全地域指定数（箇所）	H21	26	H24	26	H25	27	H27	29
生態系維持回復事業実施箇所数（箇所）	H21	0	H24	1	H25	1	H27	2

（4）生物多様性を支える人づくりプロジェクト

指標項目	基準年		現 況				目 標	
自然保護活動ボランティア数（人）	H21	14,045	H24	19,317	H25	19,570	H27	20,000
生物多様性アドバイザー登録者数（人）	H21	0	H24	146	H25	180	H27	250

（5）企業・大学との連携プロジェクト

指標項目	基準年		現 況				目 標	
「いきものつながり調査会」報告数（報告）	H21	0	H24	916	H25	1,123	H27	1,000
野生鳥獣管理技術者の養成者数（人）	H21	0	H24	56	H25	73	H27	100

2 各重点プロジェクトにおける主な取組の状況

(1) 里地里山保全再生プロジェクト

とちぎ里山林モデル地区(とちぎの元気な森づくり県民税事業:生物多様性モデル林事業)として、6箇所において、里山林の生物多様性の保全再生を図るため、多様な生き物の生息・生育環境の創出等を目的とした森林整備を実施した。

また、地域ぐるみでの獣害対策として、これまでに指定したモデル地区について、地域ぐるみで住民学習会や刈り払いを実施した。

(その他の取組) エコ農業とちぎの展開、那須平成の森における体験交流型観光の実施、生態系配慮型工法の効果検証など

(2) 河川・湿地保全再生プロジェクト

県内8箇所において、地域住民等との協働による外来種(オオハンゴンソウ等)の駆除活動を通して、貴重な在来種等の保全を図った。

また、県内河川の67箇所において、ニッコウイワナ等の産卵に適した河床に礫を浮き石状に敷き、人工的に産卵場を設置した。

(その他の取組) 井戸湿原における貴重湿生植物保全のための獣害対策



オオハンゴンソウ除去作業

(3) 野生動植物保全プロジェクト

鬼怒川中流域(宇都宮市・さくら市)について、自然環境保全地域の新規指定を行い、シモツケコウホネの生育地で次の候補地である那須烏山市下川井地区において、調整・協議等の手続きを進めた。

また、前日光県立自然公園内井戸湿原において、生態系維持回復事業に向けた自然環境調査を行い、併せて実施主体となる地元協議会を設置するなど、事業実施に向けた取組を実施した。

(その他の取組) 日光杉並木街道の保全、ミヤコタナゴの系統保存



前日光県立自然公園内井戸湿原

(4) 生物多様性を支える人づくりプロジェクト

森林ボランティア、パークボランティアなど様々なジャンルで、延べ19,570人が自主的に地域の自然保護活動に参加した。

また、県民や企業等が行う保全活動への助言等を行う人材を養成し、栃木県生物多様性アドバイザーとして34人を登録し、自然体験活動での自然解説や森林環境学習の講師などで活動した。

(その他の取組) 「森の楽校」の開催、生物多様性とちぎアクションリストの活用、「エコ・もり地域推進協議会」による普及啓発活動など

(5) 企業・大学との連携プロジェクト

企業からの寄付を活用した参加者普及啓発型自然観察会を4回開催し、参加者から207件のいきもの情報の報告を受けた。

また、宇都宮大学と連携して、野生鳥獣管理技術者養成プログラムを実施し、17人の指導者を養成し、地域のリーダーとして獣害発生地域における対策の検討や実施に向けて活動した。

(その他の取組) 地域住民等と連携した保全活動の実施



養成プログラムの様子

3 今後の対応

県民や保全活動団体、事業者などの各主体と連携・協働して多様な取組を実施していくとともに、生物多様性に関する普及啓発や各主体間のネットワークの構築やコーディネートなど各主体間の連携・協働を支援していくことにより、生物多様性とちぎ戦略に基づく各種取組の積極的な推進と指標の達成に努める。